

1. 地域で要介護状態の高齢者の生活を支える介護福祉士の技術

2. 在日コリアン高齢者を支援するエスニックコミュニティ支援の有効性

社会福祉学科
(介護福祉専攻)

アン キョンイ
安 瓊伊
(AHN Kyung-ye)

● 連絡先 TEL : 054-202-2634 FAX : 054-202-2634
E-Mail : ahn@u-shizuoka-ken.ac.jp



要介護高齢者, 介護福祉士, 生活支援技術, 小規模多機能型居宅介護, 在日コリアン高齢者, 社会福祉サービスアクセス, 阻害要因, エスニックコミュニティ

1. 小規模多機能型居宅介護の介護福祉士が行っている「要介護高齢者の生活支援に必要な技術」を明らかにする。

これまで入所施設に勤務する介護福祉士を対象に、質的・量的研究を通して「利用者の生活の構成要素」と「要介護状態の高齢者の生活を支えるための技術」に関する研究に取り組んできた。その結果、介護福祉士が要介護状態の高齢者の生活を支える「生活支援技術」には、普段の状態との違いへの気づき、高齢者同士の関係構築の支援や地域の社会資源の活用などが必要の高い技術に含まれていることが分かった。さらに、在宅を含め地域に密着した様々な介護の現場へと広げて検討することが必要だと考え、高齢者の地域居住に際し大きな役割を担う小規模多機能型居宅介護に勤務する介護福祉士が、地域居住の高齢者の「生活の要素」をいかにとらえ、どのような「技術」で支えているのかを明らかにすることを旨とし、フォーカスグループインタビューや事業所ごとのインタビュー調査を行っている。

2. 在日コリアン高齢者を対象に活動を行っているエスニックコミュニティ支援の有効性について検討する。

多文化社会という言葉に表れているように、多くの外国人と一緒に生きている。日本人とは異なるニーズを有している在日外国人が増えていくなか、福祉的ニーズを持ちながらも社会福祉サービスや支援を受けられない状況で苦しい生活を強いられている高齢者も増えつつある。在日外国人高齢者は様々な生活上の困難を抱え、地域との関係性が希薄になり、相談に応じてくれる人が見つからず一人で孤立していく人が増えている。先行した研究では、在日コリアン高齢者を対象に彼らが抱えている生活上の困難や福祉サービスに結びつきにくい要因についてインタビュー調査を行った。次いで、在日コリアン高齢者と、彼らを支援している人や団体を対象にインタビュー調査と観察調査を行い、生活課題を抱えている在日コリアン高齢者に対して同じ言語と文化を有している人々が行っている数少ないエスニックコミュニティによる支援の有効性を検討していく。



在日韓国人高齢者を支援するボランティア団体活動を行っている。在留外国人が持っている力を活かして同じ文化を有する外国人を支援する取り組みについて協力ができる。